

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
形態機能学Ⅲ(生化学)		BNNSB2L06	20106	1後	1(30)	必修
担当教員	大見 奈津江					
概要	生化学は分子を基盤として生命現象および病態を解明する学問領域である。生体がどのような分子・化合物で成り立ち、それらがどのように合成され、代謝されて、生体の恒常性が保たれているかということの基礎を学ぶ。生体の正常な仕組みを維持するために必要な基本物質の構造と機能を理解し、それらが破綻した状態である病気を生化学的側面から概説する。さらに、生体を構成する分子の種類、構造、機能を概説し、生体分子の機能異常によって引き起こされる代表的な病気について分子レベルで解説する。					
学修目標	1)人間を構成する生体分子の種類について述べるができる。 2)生体分子の構造と機能について理解できる。 3)生体分子の代謝調節機構について理解できる。 4)生体分子の代謝調節機構の異常によって引き起こされる病気について理解できる。 5)核酸の構造と機能について理解できる。 6)遺伝情報の異常によって引き起こされる病気について理解できる。					
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	生化学を学ぶための基礎知識			テキスト第1章		
2	代謝の基礎と酵素・補酵素			テキスト第2章		
3	糖質の構造と機能			テキスト第3章		
4	糖質代謝			テキスト第4章		
5	脂質の構造と機能			テキスト第5章		
6	脂質代謝			テキスト第6章		
7	タンパク質の構造と機能			テキスト第7章		
8	タンパク質代謝			テキスト第8章		
9	ポルフィリン代謝と異物代謝			テキスト第9章		
10	遺伝子と核酸			テキスト第10章		
11	遺伝子の複製・修復・組換え			テキスト第11第		
12	転写			テキスト第12章		
13	翻訳と翻訳後修飾			テキスト第13章		
14	シグナル伝達			テキスト第14章		
15	がん			テキスト第15章		
使用テキスト	畠山鎮次(2019)『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』第14版 医学書院。					
参考図書	適宜紹介する。					
成績評価基準	受講態度10%、定期試験 90%					